

事例紹介

鳥取県医療連携ネットワークシステム

おしどりネット3

システムの概要

システムの実施目的・地域など

参加団体数と参加患者数

参加の同意方法について

患者さんの同意取得の詳細

サービスについて

共有できる情報項目

共有情報の取得元

システムについて

通信ネットワーク

ログインセキュリティ

主なIT企業

サービス利用・参加料金

蓄積された個人情報の利用

予算について

費用の負担について

システムの概要

システム名	鳥取県医療連携ネットワークシステム
代表団体	鳥取県地域医療連携ネットワークシステム運営協議会
運用開始状況	導入済み：2009年
稼働状況	サービス運用中
運用終了年	
提供地域	鳥取
自治体の参加状況	運営主体として参画中
事務局運営人数	兼任2人

システムの実施目的・地域など

システムの導入目的	救急医療対策、医療連携、在宅医療対策、糖尿病対策、疾病管理、医師・看護師等の確保対策、へき地医療対策、がん対策、脳卒中対策、急性心筋梗塞対策
地域の課題	医療再生基金申請時に急性期病院と慢性期病院間の医療連携システムの提案書類の作成を医療政策課から依頼され、その流れで開発運用を開始した。当初、県内主要20病院の連携シ

	システムの計画作成を依頼され、2016年度18病院の電子カルテと画像システムを県内の診療所を含む60以上の医療機関、県境を越えて島根県の7医療機関にてセキュアに高速に参照していただくシステムとして運用中。
システム導入効果 凡例：(○) 効果あり、 (△) どちらとも言えない、 (×) 効果なし	(○) 患者サービスが向上した (○) 患者の負担が軽減した (○) 医療機関間で機能分化が進んだ (○) 医療機関間の知識やノウハウの伝達習得が進んだ (○) 医療機関間の人的ネットワークが進んだ (△) 医師の偏在を補う効果があった (○) 患者紹介の円滑化が進んだ (○) 地域中核病院のサポートが受けられるようになった (○) 診療所の支援が受けられるようになった (○) 業務全体の負担軽減 (○) 医師の負担軽減 (○) 看護師の負担軽減 (○) 事務職員の負担軽減 (△) 技術職員の負担軽減 (○) 従事者間の情報共有が向上した (○) 従事者間の連携が向上した
システムの課題	関係者のITリテラシーの問題がありあまり活用できない
工夫した点	受付窓口不要のオンライン名寄せ等人件費の掛からないシステム構築を行い、シンクライアント、仮想サーバ、仮想ストレージ等でセキュア、高速、拡張性のシステム、県の情報ハイウェイ、電力会社、国土交通省、県情報政策課の協力によるネットワークのコスト削減し、年間運営経費1000万程度と比較的少額の運用をしている。
対象地域	複数県にまたがる連携

参加団体数と参加患者数

参加団体と参加患者数	【病院】 実施中：29施設 【医科診療所】 実施中：38施設 【歯科診療所】 【薬局】 【介護施設】 実施予定：0施設 【その他】
利用施設数の割合	
登録患者数状況	実績数
登録患者数	4460
情報共有している患者状況	実績数
共有患者数	1990

参加の同意方法について

医療機関等	医療機関施設毎の参加判断
介護施設・その他	介護施設施設毎の参加判断
患者さん	患者施設毎 全ての施設毎 患者その他の方式

患者さんの同意取得の詳細

新規の患者さん	同意書による取得
撤回する場合	同意書の撤回(脱退)文書による
連携先の増加	連携先追加の同意書による取得

サービスについて

疾病	大腿骨頸部骨折、脳血管障害、心臓疾患、胃・大腸がん、その他のがん、肝炎、その他
サービス	電子紹介状、遠隔カンファランス、退院時サマリ、画像情報の共有、医療従事者用モバイル対応
補足・備考	サービスについては現時点での見込みであり、変更の可能性があります。

共有できる情報項目

基本情報	患者基本情報、病名情報
文書	診療情報提供書、医師記録、サマリ、手術記録、看護記録等、文章その他 多くの病院は電子カルテと画像システム1%の参照許可。各病院の主導決定
オーダ情報	処方オーダ、注射オーダ、検体検査オーダ、放射線検査オーダ、内視鏡検査オーダ、生理検査オーダ、食事オーダ
検査結果	検体検査結果、生理検査結果、画像
調剤結果	
その他	

共有情報の取得元

共有情報の取得元	病院電子カルテより、医科診療所電子カルテより 薬局（調剤レセコン）より取得、検査センター（検査システム）より取得が可能かどうか調査段階。
----------	---

システムについて

連携方式	クラウド型
情報共有の形態	双方向での共有、参照のみ
患者IDシステム	その他の共通IDシステムを利用、世界標準のIHE-ITI XDS/XDS-Iをシンクライアント基盤上で運用。XDSはIBMが カナダで稼働させているもの、XDS-IはGEがベルギーで稼働 しているものをSS-MIX2対応、日本語対応し、SBC上で稼 働させている。名寄せはオンライン処理している。
標準化ストレージ	SS-MIX2、PIX/PIXV3/PDQ/PDQV3
情報の保存場所	大学病院のサーバ室にクラウドサーバ設置外部のデータセン ター利は将来的に検討。
障害対策	各病院のSS-MIX2サーバ、DICOMサーバのデータをセンタ ーで保存、再度収集可能
厚労省標準規格の採用	医薬品HOTコードマスター、ICD10対応標準病名マスタ ー、診療情報提供書2、保健医療情報-医療波形フォーマット -第92001部：符号化規則、医療におけるデジタル画像と 通信、JAHIS臨床検査データ交換規約、標準歯科病名マスタ ー、臨床検査マスター、JAHIS放射線データ交換規約、JJ10 17指針

通信ネットワーク

医療機関等との通信	医療機関との通信専用線、医療機関との通信IP-VPN、医療機 関との通信インターネットVPN
介護施設・その他施設との 通信	介護施設の通信専用線
患者さんとの通信	

ログインセキュリティ

医療機関・薬局用	2要素認証、IDとパスワード
介護施設・その他施設用	IDとパスワード
患者さん用	

主なIT企業

企業名（1）	セコム山陰（株）
企業名（2）	日本IBM
企業名（3）	GEヘルスケア

サービス利用・参加料金

病院（開示施設）	実施中：無料 月額：0円
病院（閲覧施設）	実施中：無料 月額：0円
診療所	実施中：無料 月額：0円
薬局	実施中：無料
介護施設	実施中：無料 月額：0円
患者さん	実施中：無料

蓄積された個人情報の利用

地域の医療費適正化の目的で利用	実施なし/予定なし
学術研究等の公益目的で利用	実施なし/予定なし
公益目的以外で利用	実施なし/予定なし

予算について

構築費用概算	509731 (千円)
年間運用費用概算	12069 (千円)
保守費概算	12069 (千円)
その他年間費用概算	

費用の負担について

実施中システム構築費の負担	自治体の負担
実施中システム運用費の負担	
実施予定システム構築費の負担	
実施予定システム運用費の負担	

[< 事例一覧へ戻る](#)

[ページの先頭へ戻る](#) 

医療情報連携ネットワークはなぜ必要？

- 出発点は地域医療を良くしたいという思い
- 医療情報連携ネットワークの導入効果
- 利用者の声（導入効果）

医療情報連携ネットワークをどう作る？

- 医療情報連携ネットワークの構築手順
- 実施のポイント
- 利用者の声（苦労した点、成功要因）
- ガイドライン、書式例など

医療情報連携ネットワークの具体例を見る

医療情報連携ネットワークとは

- データで見る
- ピックアップ事例
- 事例を探す

構築手順

- 構築手順について
- Step1：計画
- Step2：構築
- Step3：運用
- Step4：更改

FAQ

- 用語集
- お役立ち情報
- リンク集
- 資料ダウンロード

